

# ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.03-08 NO.029 2011年8月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール：[nanbu-kyokai@nifty.com](mailto:nanbu-kyokai@nifty.com)

URL：<http://kawasaki-nanbu-kyokai.com>

## 「今を考える心」

橋本幸夫

「今の時を生かして用いなさい。」

—口語訳— (エペソ 5 : 16)

〈念〉という文字を分解してみます。〈今〉と〈心〉という文字になります。〈念〉とは〈今を考える心〉であることがわかるでしょうか。

〈今〉の〈心〉とは〈目の前にあることを一生懸命やりなさい〉ということにほかなりません。それは、言葉を換えて言えば〈実践〉ということでしょう。

インドで多くの病人の看護をしていた修道女マザー・テレサはあまりにも有名ですが、この方は同じ質問を何十回となく受けてきたそうです。

その質問とは、〈あなたはなぜ、いくら手厚い看護をしても助からないような末期や難病の人々に対して、そんなに一生懸命に心を込めて全力で看護をするのか。結局は無駄になるのではないか〉というもの。質問するジャーナリストも不勉強だしひどい質問だと思いますが、マザー・テレサは穏やかにいつもこう答えてきたそうです。

〈いま死に瀕している人たちに、心を込めて看護することで、せめて最後の最後に《生まれてきてよかった》と思ってもらいたいのです。みな恵まれない人生を送って来た人たちです。《ひどい人生だった。生まれてくるんじゃなかった》と思い続けてきたことでしょう。でも最後には《生まれてきてよかった》と喜んでもらいたいのです〉と。

マザー・テレサは、その病人が死んでしまうかもしれない、手厚い看護が無になってしまうかもしれない、という結果(未来)を見ているのではありません。人生の途中で誰かが手を差し伸べてあげればこの人達はこうならなかったろうに、過去を悔やんだり、人を責めたりもしません。ただ、今、自分にできることをし続ける、やり続けることに徹していたように見えます。実践こそがマザー・テレサの根底だったのかもしれない。

〈今〉の〈心〉とは〈今日目の前にあることを一生懸命やること〉であり、それが〈念〉という文字になったのでしょうか。

私たちは福音のメッセンジャー(伝達者)であると同時に、今の時を生かして福音に生きるジッセンジャー(実践者)でありたいですね。